

「神の恵みの 良い管理者になる」(2)

ルカの福音書 16章14-15、19-31節

1

このたとえ話のきっかけ

- それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい。1ペテロ4:10
- 私たちは、何もこの世に持ってこなかったし、また、何かを持って出ることできません。
1テモテ6:7

2

このたとえ話のきっかけ

- 金銭を好むパリサイ人たちは、これらすべてを聞いて、イエスをあざ笑っていた。イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、人々の前で自分を正しいとするが、神はあなたがたの心をご存じです。人々の間で尊ばれるものは神の前では忌み嫌われるものなのです。
ルカ16:14-15
- あなたがたは自分たちの言い伝えのために神の言葉を無にしている。 マタイ15:6

3

ある金持ちがいた。紫の衣や柔らかい亜麻布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。その金持ちの門前には、ラザロという、できものだらけの貧しい人が寝ていた。彼は金持ちの食卓から落ちる物で、腹を満たしたいと思っていた。犬たちもやって来ては、彼のできものをなめていた。しばらくして、この貧しい人は死に、御使いたちによってアブラハムの懷に連れて行かれた。金持ちもまた、死んで葬られた。金持ちが、よみで苦しみながら目を上げると、遠くにアブラハムと、その懷にいるラザロが見えた。金持ちは叫んで言った。『父アブラハムよ、私をあわれんでラザロをお送りください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすようにしてください。私はこの炎の中で苦しくてたまりません。』 ルカ16:19-24

4

するとアブラハムは言った。『子よ、思い出しなさい。おまえは生きている間、良いものを受け、ラザロは生きている間、悪いものを受けた。しかし今は、彼はここで慰められ、おまえは苦しみもだえている。そればかりか、私たちとおまえたちの間には大きな淵がある。ここからおまえたちのところへ渡ろうとしても渡れず、そこから私たちのところへ越えて来ることできない。』金持ちは言った。『父よ。それではお願いですから、ラザロを私の家族に送ってください。私には兄弟が五人いますが、彼らまでこんな苦しい場所に来ることがないように、彼らに警告してください。』しかし、アブラハムは言った。『彼らにはモーセと預言者がいる。その言うことを聞くがよい。』金持ちは言った。『いいえ、父アブラハムよ。もし、死んだ者たちの中から、だれかが彼らのところに行けば、彼らは悔い改めるでしょう。』アブラハムは彼に言った。『モーセと預言者たちに耳を傾けないのなら、たとえ、だれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』
ルカ16:25-31

5

金持ちとラザロの死後の様子

- その弟子はイエスの胸元に寄りかかったままイエスに言った。ヨハネ13:25
- いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。ヨハネ1:18
- 主はその御腕で力強いわざを行い、心の思いの高ぶる者を追い散らされました。権力のある者を王位から引き降ろし、低い者を高く引き上げられました。飢えた者を良いもので満ち足らせ、富む者を何も持たせずに追い返されました。
ルカ1:51-53

6

金持ちとラザロの死後の様子

- あなたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。世と、世の欲は過ぎ去ります。しかし、神のみこころを行う者は永遠に生き続けます。
ヨハネ2:15-17
- 今の世で富んでいる人たちに命じなさい。高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置き、17
マ7:17-19
- 人があり余るほど持っているでも、その人の命は、財産にあるのではない。ルカ12:15

7

金持ちとラザロの生前の様子

- アブラハムは彼に言った。『モーセと預言者たち(聖書)に耳を傾けないのなら、たとえ、だれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』ルカ16:31
- 私も、すべてのことを初めから綿密に調べていますから、尊敬するテオフィロ様、あなたのために順序立てて書いて差し上げるのがよいと思います。それによって、すでにお受けになった教えが確かであることを、あなたによく分かっていただきたいと思えます。ルカ1:3-4

8

神の恵みの良い管理者になる

万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。不平を言わないで、互いにもてなし合いなさい。それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい。語るのであれば、神のことばにふさわしく語り、奉仕するのであれば、神が備えてくださる力によって、ふさわしく奉仕しなさい。すべてにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。この方に栄光と力が世々限りなくありますように。アーメン。1ペテロ4:7-11

9

神の恵みの良い管理者になる

- 自分の思い通りになるのが成功？(思いの問題がある)
- この世でも、次の世でも神に従う。それが私たち人間の立場。
- 「みこころが天で行われるように、地でも行われますように。」
- 神の国の中で生きる＝天国の中で生きる
- 「みこころの」の訓練によって、「何でも欲しいものを求めなさい。そうすればそれはかなえられる。」ヨハネ15:7 自分が変えられる。ローマ12:2

10

神の恵みの良い管理者になる

- この世の「勝ち組」が次の世では「負け組」になることもある。
- 「なにぐみ」であるべきか？
- 神の「めぐみ」であること。神の恵みによって救われ、神の恵みによって生きる。神の恵みの良い管理者として生きる。
- 本当の「勝ち組」は「神の恵み」!

11